

日本の伝統・文化を継承する若者たち

明日への扉

Door to Tomorrow



Yoshinori Hara

1983年大阪府生まれ。だんじり祭の本場・岸和田市で幼少時から祭に親しみ、高校に入るところにはだんじり自体に興味を持つようになる。高校を中退し、だんじり彫物師の第一人者である木下賢治氏に弟子入り。年季明けを許された今も修業に打ち込む。



だんじり祭

岸和田市や泉大津市など、大阪府の泉州地域で毎年秋に開催。だんじりは町会が保有し、「岸和田だんじり祭」では通常、35台のだんじりを曳行する。同祭のルーツは元禄16(1703)年に五穀豊穡を祈願して始められた稻荷祭とされ、300年以上の歴史を誇る。

だんじり彫物師

原 宜典 氏

祭とともに生きる人たちを思い、一刃、一刃に魂を込めて。

「ソーリヤ、ソーリヤ」の掛け声にのり、重さ4tを超えるだんじり(地車)が町中を次々に駆け巡る。大阪・泉州地域のだんじり祭。角を勢いよく曲がる「やりまわし」など、とかく勇壮な動きに目を奪われがちだが、祭の魅力はそれだけに終わらない。注目すべきは、だんじりに施された彫り物。櫓の木目を生かしながら精巧に彫られたその彫り物は、色がほとんどないも関わらず圧倒的な造形美で見る者を魅了する。

何があったのか?

原「20歳のときに工房を飛び出して、1年半ほど今の仕事を離れました。

でもやはり自分には彫り物しかない」と気付き、親方に再び弟子入りしたんです」

以来、寝食を忘れて技の鍛練に励み、晴れて年季明け(修業を終えること)を果した今、新調されるだんじりに全身全霊で取り組む。だんじりは千を超えるパーツの組み合わせからなるが、原さんが任されているのはだんじりの「顔」と呼ばれる「土呂幕」。ここを任されるといことは彫物師にとつて、とても名誉なことなのである。

ひたすら作業に明け暮れること2年。見事な彫り物をまとっただんじりが、持ち主となる町の人たちに引き渡される時がやって来た。

その日、早朝にも関わらず、だんじりは大きな歓声とともに迎え入れられた。そして神職によつて魂を吹き込まれると、本番さながらの迫力で町中を駆け始めた。お披露目曳行のスタートだ。

曳行を見た感想は?

原「町の皆さんの楽しそうな顔を見たとき、一生懸命つくって良かったと実感しました。その笑顔のためにも、もつともつと技を磨いていきたいと思っています」

これから何十年と受け継がれていく中で、だんじりは町の宝となり、そこに暮らす人たちの絆の象徴となる。その歩みをこれからも支えていくのは、新調だけでなく修理も担う、原さんをはじめとする職人なのだ。だんじりを心から愛する人たちを思い、仕事への誇りを胸に、明日への扉を開け、また一歩、夢に近づく。

※2010年9月取材。掲載内容は取材当時のものです。

MOVIE MORE!!
だんじり祭のもう一つのハイライト、彫りに挑む彼の姿を動画で詳しくご紹介しています。ぜひご覧ください。

日本の伝統・文化を継承する若者たちを紹介する映像ドキュメンタリー「明日への扉」をぜひご覧ください。

MOVIE



パソコンやタブレット、CS放送など多彩にお楽しみください。

Web版

30人以上のバックナンバーがご覧になれます。

<http://www.athome.co.jp/tobira/>



TV番組

ディスカバリーチャンネル(CS)
冠番組「アットホーム presents 明日への扉」放映中
毎週金曜日 22:53~23:00



ビジョン

ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中

NEW!!



最新号のご案内 好評公開中

No.040 / 伊万里焼・絵付師 川副 隆彦 氏